

## 1 教育課程実施上のポイント

### (1) 目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

生活科の目標の(1)、(2)、(3)には育成を目指す資質・能力が示されている。

(1)では「**知識及び技能の基礎**（生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか）」を、(2)では「**思考力、判断力、表現力等の基礎**（生活の中で、気付いたこと、できるようになったことを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか）」を、(3)では「**学びに向かう力、人間性等**（どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか）」を示している。

### (2) 実施上のポイント

#### ①改訂のポイント

##### ◇基本的な考え方

- ・ 幼児期の教育とのつながりや小学校低学年における各教科等における学習との関係性、中学年以降の学習とのつながりも踏まえ、具体的な活動や体験を通して育成する資質・能力（特に「思考力、判断力、表現力等」）が具体的にできるよう見直した。

##### ◇学習内容、学習指導の改善・充実

- ・ 具体的な活動や体験を通じて、どのような「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指すのかが具体的にできるよう、各内容項目を見直した。
- ・ 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするため、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現し考えたり、「見つける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を行ったりする活動を重視した。
- ・ 動物の飼育や植物の栽培などの活動は2学年間にわたって取り扱い、引き続き重視する。

「生活科における教育のイメージ」の一部抜粋

学年	社会	総合的な学習の時間	理科	生活科	国語	算数	図画工作	音楽	体育	道徳	特別活動
小学校中学年	社会的現象の見方・考え方の過程や時間的・空間的・数量的関係などを通して社会的現象を見出し、比較・分類した「統合した」国民の生活と関連付けること	探究的な見方・考え方(案) 各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、主要な現象を多様な角度から観察して捉え、実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けること	理科の見方・考え方の見方・考え方を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり関係付けたりするなど、問題解決の方法を聞いて考えること	「生活科における教育のイメージ」の一部抜粋							
小学校低学年				<p>＜身近な生活に関わる見方・考え方(案)＞</p> <p>身近な人々、社会及び自然を自分と関わりで捉え、比較、分類、関連付け、試行、予測、工夫することを通して、自分自身や自分の生活について考えること</p> <p>具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を、次のように育成することを目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする</li> <li>○身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え表現する力を育成する</li> <li>○身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信を持って学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を育てる</li> </ul>							
幼児教育				<p>「スタートカリキュラム」を通じて、各教科等の特質に応じた学びにつなぐ</p> <p>健康な心と体 自立心 協働性 探究心・観察力の身覚え 社会生活との関わり 見方・考え方の身覚え 自然との関わり・生き尊重 数量・図形・文字等への関心・感受 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現</p> <p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</p>							

- ・各教科等との関連を積極的に図り、低学年教育全体の充実を図り、中学年以降の教育に円滑に移行することを明示した。特に、幼児期における遊びを通した総合的な学びから、各教科等における、より自覚的な学びに円滑に移行できるよう、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫（スタートカリキュラム）を行うことを明示した。

幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は児童期の初期に目指す姿とも重なります。こうした具体的な育ちの姿を踏まえて教育課程をつないでいきましょう。



## ②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

◇生活科の学習指導は、これまでと同様に、児童の思いや願いを実現する体験活動を充実させるとともに、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行きつ戻りつする相互作用を意識し、以下の点に留意することが重要である。

主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活科では、児童の生活圏である学校、家庭、地域を学習の対象や場とし、対象と直接関わる活動を行うことで、興味や関心を喚起し、自発的な取組を促してきた。こうした点に加えて、表現を行い伝え合う活動の充実を図るようにする。</li> <li>・学習活動の成果や過程を表現し、振り返ることで得られた手応えや自信は、自らの学びを新たな活動に生かし挑戦していこうとする子供の姿を生み出す。こうしたサイクルが学びに向かう力等を育成するものと捉え、指導に生かすようにする。</li> </ul>
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活科では、身の回りの様々な人々と関わりながら活動に取り組んだり、伝え合ったり交流したりすることを大切にしたりするようにする。伝え合い交流する中で、一人一人の発見が共有され、そのことをきっかけとして新たな気づきが生まれたり、関係が明らかになったりすることを踏まえ、他者との協働や伝え合い交流する活動により、児童の学びを質的に高めるようにする。</li> <li>・双方向性のある活動が行われ、対象と直接関わり、対象とのやり取りをする中で、感じ、考え、気付くなどして対話的な学びが豊かに展開されるようにする。</li> </ul>
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いや願いを実現していく過程において「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かした学習活動が充実することで、気付いたことを基に考え、新たな気づきを生み出し関係的な気づきを獲得するようにする。</li> <li>・低学年らしいみずみずしい感性により感じ取られたことを、自分自身の実感の伴った言葉にして表したり、様々な事象と関連付けて捉えようとしたりすることを助けるような教員の関わりを実現していく。</li> </ul>

### <学習過程>



生活科の学びの過程では、やってみたい、してみたいと自分の思いや願いをもち、具体的な活動や体験を行い、感じたり考えたりしたことを表現していくプロセスが大切です。

## ③見方・考え方について

身近な生活に関わる見方・考え方であり、それは身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事

見方	<p>&lt;身近な生活を捉える視点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活における人々、社会及び自然などの対象と自分がどのように関わっているのかという視点</li> </ul>
考え方	<p>&lt;自分の生活において思いや願いを実現していくという学習過程の中にある思考&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身や自分の生活について考えることやそのための方法</li> </ul>

## ④移行措置について

生活は、全部又は一部について新学習指導要領によることができる。

## 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

### (1) 単元名 あきランドであそぼう (第1学年)

内容 (6) 自然や物を使った遊び (8) 生活や出来事の伝え合い

### (2) 単元目標

- ・身近な自然や身近にあるものを使って、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付くことができる。
- ・自然を利用した遊びやその遊び方を考えたり、つくったおもちゃの面白さを園児に伝える工夫をしたりすることができる。
- ・自然物を利用した遊びを通して、身近な人々と関わったり、遊んだりする楽しさに気付くことができる。

### (3) 単元構成 (22時間)

小単元名	学習活動	子供の意識の流れ	他教科との関わり等
1 まわりのようすがかわったよ (3時間)	公園で秋を探したり、自然物などを使った遊びを楽しんだり、見つけた秋を友だちに伝えたりする。 ※教室に秋の木の实や落ち葉、秋に関する絵本など置いておく。 ○公園へ出かけ、秋を見付ける。 ○見つけた秋を紹介する。	<b>環境構成の工夫</b> ・葉っぱの色が変わってきたね。 ・キンモクセイのにおいがするよ。 ・どんぐりが落ちていたよ。 ・どんぐりごまがつくれそうだ。	国語「わたしのはっけん」 道徳「大すき！わたしたちの町」
2 たのしもうあきのしぜん (5時間)	秋の自然物を使って工夫しておもちゃや飾りをつくり、みんなで楽しむ。 ○見つけた自然物でおもちゃや飾りをつくる。 どんぐりごま、めいろ、けんだま、マラカス、まとあて、アクセサリー ○つくったおもちゃや飾りを紹介し合う。 ○つくったおもちゃや飾りで一緒に遊ぶ。	・何がつくれるか、調べてみよう。 ・いろいろなおもちゃがつくれそうだ。 ・ようじや空き箱も用意しよう。 ・どうしたらこまがよくまわるかな。 ・みんなにも見せたいな。 ・友だちのおもちゃもおもしろそうだな。 ・あきのおもちゃで遊ぶと楽しいな。 ・保育園の友だちを招待したいな。 → <b>園児を招待して「あきランド」をひらこう！</b>	図工「コロコロゆらりん」 <b>相手意識 目的意識</b>
3 ひらこうあきランド (10時間)	自分たちがつくったおもちゃや飾りを使って、保育園の友だちに楽しんでもらう「あきランド」の準備をする。 ○どんなお店をつくりたいか話し合う。 ○各グループでお店の準備をする。 ○より楽しい「あきランド」にするための工夫を考える。(本時) ○前時のアドバイスを参考にしながら、あきランドの準備をする。	・園児に楽しんでもらいたいな。 ・どんな遊びなら楽しんでもらえるかな。難しいのはよくないな。 ・おもちゃをたくさん準備しておいた方がいいな。材料をたくさん拾ってこよう。 ・みんなで実際に遊んでみたいな。 ・ルールはもっと簡単にしよう。 ・まとあては近くから投げた方がいいよ。 ・けんだまの糸の長さを変えてみたらどうかな。 ・みんなからのアドバイスを生かしておもちゃやルールを変えてみよう。 ・遊び方をもっと分かりやすくしよう。 ・お店の看板もつくろう。招待状も出そう。	<b>見付ける 比べる たとえる 試す 見通す 工夫する などの多様な学習活動</b>

体験活動と表現活動の繰り返し

4 あそぼう あきランド (4時間)	自分たちがつくったお店で、友だちや保育園児と一緒に「あきランド」を楽しむ。		
	○園児を「あきランド」に招待し一緒に楽しむ。  ○活動をふり返る。 写真、ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児は楽しんでくれるかな。</li> <li>・遊び方を優しく教えてあげよう。</li> <li>・お店にたくさん来てくれるといいな。</li> <li>・壊れたら修理をしてあげるよ。</li> <li>・楽しかったな。また一緒に遊びたいな。</li> <li>・いろいろな秋を見つけたよ。</li> <li>・秋の自然物でいろいろなおもちゃをつかって、遊んで楽しかったな。</li> </ul>	音楽「うたでなかよしになるう」  国語「おもいでしてかこう」

生活科においては、気付きの質の高まりが、深い学びとなります。気付きの質を高めるために、体験活動と表現活動が連続的・発展的に繰り返される単元を構成しましょう。



#### (4) 授業展開例

##### ①本時の目標

友だちとおもちゃで遊ぶことで、園児にとって遊びやすいおもちゃにするためにはどうしたらよいか考え、おもちゃや遊び方を工夫している。

##### ②展開例

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	・留意点 ◎評価
○本時のめあてを確認する。		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>【10の視点】</b>  <b>①魅力的な課題・教材の提示</b> </div>
ほいくえんのとみだちにしたのしんでもらうために、おもちゃのあそびかたをくふうしよう。		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「保育園の友だちに楽しんでもらう」という相手意識、目的意識をもたせることで活動意欲が高まり、学習が促進されます。</p> </div>
○おもちゃで遊びながら遊び方の工夫をしたり、進化させたりする。 ・1年生役は遊び方を説明する。 ・園児役は気付いたことを1年生役にアドバイスする。 <視点> 遊び方の工夫(ルール)改良点	○おもちゃで遊んで、友達にアドバイスをしましょう。 ※園児役、1年生役に分かれる。 【どんぐりごま】 ・軸が長いこまもほしいな。 ・回し方のコツを教えてほしいな。 【けん玉】 ・カップの大きさが違うとおもしろいね。 ・回数を決めて競争したらいいね。 【どんぐり迷路】 ・時間を計ったらいいかもしれないね。 ・落とし穴もあるとおもしろいよ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>【10の視点】</b>  <b>⑤説明・発表の機会の充実</b> </div> <p>園児役と1年生役に分かれ、一緒に活動することで、園児の立場に立った説明の仕方や遊び方の工夫等が考えやすくなります。</p>
○ふり返りをする。	○遊び方の工夫をしたことをふり返りましょう。 ・ルールを変えると、保育園の友だちも楽しめると思いました。 ・点を決めて競争すると、より楽しくなりました。 ・こまをつくる時、〇〇さんが上手にできる方法を教えてくださいました。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>【10の視点】</b>  <b>⑥学び合う活動の充実</b> </div> <p>小グループによる体験活動や、気付きをすぐに伝え合い修正し合う場を設定することで、比較したり、試したり、工夫したりする多様な活動が連続的に行われ、気付きの質が高っていきます。</p>
○本時のまとめと次時の予告をする。	ふり返り活動で自分の思いを言語化することで、無自覚だった気付きが自覚化され、個別の気付きが関連付けられたり、自分自身についての気付きが生まれたりします。こうした気付きの質の高まりは、満足感や成就感、自信となり、次の体験への安定的で持続的な意欲につながっていきます。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【10の視点】</b>  <b>⑧学習をふり返る活動の設定</b> </div>